

## 日本学術振興会の拠点大学方式による学術交流事業

生物試験部門教授 渡邊 裕司

### 平成14年度・タイ国との拠点大学方式による学術交流事業

日本学術振興会の事業、本学（和漢薬研究所）を日本側拠点大学とするタイ国との学術交流事業は2年目を迎えた。

日本側の協力大学（連絡担当）は千葉大学大学院薬学研究院（石川勉教授）、東京大学大学院薬学研究科（海老塚豊教授）、名古屋大学大学院生命農学研究科（磯部稔教授）、広島大学大学院医歯薬学総合研究科（山崎和男教授）、九州大学大学院薬学研究院（正山征洋教授）、岐阜薬科大学（永井博弐教授）、明治薬科大学（久保陽徳教授）、北里大学生命科学研究所（山田陽城教授）の8大学及び協力研究員（所属は異なる3大学）である。

平成14年度の当初計画では、日本からタイ国の大学へ共同研究目的で出かけた研究者は21名（平均滞在期間は7日）、タイから日本へ共同研究目的で招へいした研究者は23名（平均滞在期間は56日）であった。また、研究打ち合わせのための相互の訪問は日本側から2名、タイ側から1名であった。しかし、年度末までの実際の交流員数は予算の関係でこの当初計画よりも増えそうである。このうち、和漢薬研究所で受入れた研究者は11名であった。

本事業は「薬学領域」における共同研究の確立を目指しており、現在6研究課題が設定されている。

1. 老人性疾患の予防と治療に有用な天然薬物の研究
2. アレルギー性疾患及び癌の予防や浸潤・転移を抑制する天然薬物の研究
3. エイズや肝炎に有効な天然薬物の研究
4. マラリアに有効な天然薬物の研究
5. 天然薬物の構造・合成・活性発現の分子機構の研究
6. タイ産薬用植物成分の生合成に関する分子生物学的とバイオテクノロジー研究、及びタイ産薬用植物のデータベースの確立

この中で4研究課題においては成果を論文として投稿した研究例や、課題独自の研究方法に関する研修会を開催された例もあり、徐々に実績が挙がっていると思われる。残る1課題（マラリアに有効な天然薬物の研究）は推進するタイ側薬学研究者が少なく、再考する必要がある。

以上